

大学振興部会における論点例

審議テーマ1：総合知の創出・活用を目指した文理横断・文理融合教育、ダブルメジャー、メジャー・マイナー等による学修の幅を広げる教育（以下「文理横断・文理融合教育等」）の推進、初等中等教育における学びの変化や文理分断の改善に対応した大学の在り方

（論点例）

（1）なぜ文理横断・文理融合教育等を推進する必要があるのか。

- ・ 予測不可能な時代にあって一層必要とされる課題発見・解決力を学生が身に付けるためには、文理横断的なカリキュラム、学修の幅を広げるような工夫が一層求められるのではないかと。
- ・ DX の進展により社会が転換期を迎える中、リテラシーレベルの数理・データサイエンス・AI に関する知識・技能は、文理を問わず基本的に全ての学生が身に付けるべき素養と言えるのではないかと。

（2）文理横断教育・文理融合教育等の取組には、どのようなアプローチ、類型があると考えられるか。

- ① 文理横断・文理融合教育を通じて課題解決力等を涵養することを目的とした学部・学科を設置している例（九州大学共創学部、広島大学総合科学部国際共創学科 等）
- ② 文理横断・文理融合的な学問領域に基づく学部を設置している例（長崎大学環境科学部、滋賀大学データサイエンス学部、中央大学国際情報学部 等）
- ③ リベラルアーツ系の学部・学群等において複数専攻（ダブルメジャー）、副専攻（マイナー）制を導入し、学際的な教育プログラムを実施している例（国際基督教大学、桜美林大学リベラルアーツ学群 等）
- ④ 副専攻として既存学部にはない文理横断・文理融合型の教育プログラムを実施している例（昭和女子大学データサイエンス副専攻プログラム、同志社大学サイエンスコミュニケーター養成副専攻 等）

- ⑤ 一般教育・共通教育において学部学生に対して数理・データサイエンス等に係る科目を必修としてしている例（大正大学）
- ⑥ 理工系学部において学士課程から博士課程まで継続的・体系的なリベラルアーツ教育を展開している例（東京工業大学リベラルアーツ研究教育院）

（3）我が国の大学において、文理横断・文理融合教育等が十分に進捗、発展しているとは言えない状況であるとすれば、その背景、要因は何か。

- ・ 例えば、上記（2）の例にあるような学部・学科等の設置、学生の学修の幅を広げるようなカリキュラムの工夫を進める上で、どのような課題や阻害要因があると考えられるか。

（4）学部段階における文理横断・文理融合教育等の推進と専門教育の高度化や大学院における研究者養成との関係をどのように考えるか。

（5）文理横断・文理融合教育等を行う大学・学部等を積極的に評価、支援していくために、どのような取組が考えられるか。

（6）文理横断・文理融合教育等の実施に当たっては、オンライン環境等も活用して他大学・学部等と連携を図ることも有効ではないか。特に小規模の大学にあっては、大学等連携推進法人制度等の活用により、他大学とリソースを共有することも有効ではないか。

（7）文理分断からの脱却、文理横断・文理融合教育等の推進という観点から、初等中等教育と高等教育との接続について、どのような取組が求められるか。

- ・ 大学が課題発見・課題解決力の育成等を目指した文理横断・文理融合教育等を行うに当たっては、学修・卒業に必要な能力・適性等の判定の観点から、アドミッション・ポリシーやこれに基づく入試科目の見直し等を含め、入学者選抜における工夫・改善を行うことも重要ではないか。